

B-131 ミセスの衣服設計に関する基礎研究—体型からみた衣服サイズについて—  
京大家政 〇川端厚子 山名信子 福井弥生 畠山絹江 銭谷ハ栄子  
滋賀大 奥村量

目的：既製衣料は、消費者にとりて利用しやすいが、適合度の高いものばかりではない。特に体型が、経産やその他の要因によって肥満的傾向にあるミセスには、適合度が低い。そこで、胸囲85cm以上のミセスを対象として身体計測を行い、体型を数値的に把握し、体型の特徴をとらえ、衣服サイズについて検討した。

方法：被験者は、京都、大阪市内および、その周辺に居住する胸囲85cm以上の健康なミセス172人である。年齢は、26才から53才迄であり、計測期間は、1976年11月から約1か年にわたっている。計測方法は、工業技術院による日本人体格調査の計測方法に準拠し、計測器具は、マルチン人体測定器を使用し、121項目の計測を行い、そのうち今回は、58項目をとりあげ、若年層（26～39才）と中年層（40～53才）において考察を行った。

結果：被験者をローレル示数により分類すると、肥満型は、若年層74%、中年層79%で、瘦身型は無く、他は普通体型であった。また体型を概観すると、中年層は若年層に比べて胸囲、腹囲が大きく、体幹部の矢状径が大きい傾向が認められた。そこで、胸囲と胸囲、胸囲と腰囲の分布から、回帰直線を求め、その直線の±許容幅× $\frac{1}{2}$ の間に含まれる人数は、胸囲と胸囲では、若年層で27.6%、中年層で39.8%、胸囲と腰囲では、若年層で35.2%、中年層は41.1%であった。JIS L 0102との比較を行ったところ、本資料では、JISより大きな衣服サイズの必要が認められた。項目間の相関係数を検討した結果や、衣服寸法としての必要性などから、身長、胸囲、腰囲を主項目とし、サイズ案を作成した。